

1 「目標」に対する指摘事項

整理番号	No.	目標名	施策コード	施策名	質問箇所	種別	結果の分析欄	今後の方針欄	指摘事項	回答
1	42	福祉体験教室開催回数	411	福祉のまちづくり	その他	会議中の質問	多くの学校等に事業の目的を説明し、協力を得て体験教室を開催できた。	今後も多くの学校に事業の目的を説明し、体験教室を開催することによりボランティア意識の向上を図る。	年16回を目標とした根拠は。	市内全小学校において、最低1回ずつ開催することを目標としたことから、市内小学校数の16回としました。
2	43	介護予防事業の延べ参加者数	412	高齢者福祉・介護保険	結果の分析	会議中の質問	二次予防高齢者施策の介護予防ふれあいサロン事業の参加者が増加、一般高齢者施策では、各事業において参加者が増加した。高齢者人口の増加とともに、高齢者の介護予防へのニーズが高まっていると考えられる。	今後もこの水準を維持していきたい。	結果の分析に参加者数が増加したと書いてあるが、何が原因で増えたのかの記載がないので分析になっていない。	二次予防高齢者施策では、介護予防に対する保健師・看護師の訪問体制の充実、職員のアプローチ技術の向上により、該当者の介護予防の必要性について理解が得られやすくなったことから、介護予防ふれあいサロン事業の参加者が増加した。一般高齢者施策では、積極的なPRを地区サロンや広報等で行ったことに加え、現に参加者の満足度が高いことから、参加者を通じた口コミによる伝播により、各事業の参加者が増加した。
3	44	相談支援事業実施事業所数	413	障がい者福祉	今後の方針	会議中の質問	障がい者の福祉に関する様々な問題について相談に応じ、福祉サービス利用のための情報提供等を行う関係機関と支援会議を行うなかで、相談支援の充実が図られてきている。	相談支援事業所及び相談支援専門員等との連携協力するなかで、障がい児(者)のニーズを的確に把握し、満足度を高められるよう事業を実施していく。	「ニーズを的確に把握し、満足度を高められるように事業を実施していく。」とあるが、「事業所に働きかけていく」等、目標に対する具体的な取組を書いた方がよい。	相談支援事業所及び相談支援専門員等との連携協力するなかで、一人でも多くの相談支援専門員の資格取得をお願いし、障がい児(者)にとって必要な支援やサービスを提供し、満足度を高められるよう事業を実施していく。
4	44	相談支援事業実施事業所数	413	障がい者福祉	その他	会議中の質問			障がいの種類(知的障がい、精神障がい、身体障がい)ごとに対応している事業者の数の内訳まで出してほしい。	平成25年度末、主たる障がい対象別相談支援事業所数 身体・知的・精神障がい8、知的障がい3、精神障がい1
5	45	高等技能訓練促進費・自立支援教育訓練給付金受給者数	414	母子父子福祉・低所得者福祉	その他	会議中の質問	広報への掲載回数を年1回から2回に増やし、制度の周知に努めたことにより、受給者数が順調に推移している。	母子家庭等の経済的な自立を支援するため、広報への掲載を適宜増やし、諸制度の周知と利用拡大を図る。	人口10万人の市で給付目標値が6人というのは、目標が低すぎないか。	長野県の世帯数に占める受給者の割合から、本市における目標設定値は妥当であると判断しています。(H25年度長野県世帯数803千世帯のうち116人が受給)
6	46	ぴんころステーション延べ参加者数	421	健康増進	その他	質問票による質問			山門市、冬季ともに開催回数をいくつからいくつに減らしたのか。	野沢山門市は、観光客の方が多く市民が少ないため、年5回から4回へ減らし、5月から10月までの開催としました。
7	46	ぴんころステーション延べ参加者数	421	健康増進	結果の分析	質問票による質問	野沢山門市は、観光客の方が多く市民が少ないため開催回数を減らした。また、冬季は戸外での開催のため、健康相談にふさわしくない環境であることから冬季の開催を減らした。	ぴんころステーション実施箇所の拡大を図る。	平成24年度実績から見ると増えている。増加のための取組も記載すべきではないか。	野沢山門市は、観光客の方が多く市民が少ないため開催回数を減らした。また、冬季は戸外での開催のため、健康相談にふさわしくない環境であることから冬季の開催を減らした。平成25年度は保健指導員の全てのブロック研修14会場でぴんころ食の試食を含めた栄養講話(ぴんころステーション)を実施し、研修で興味を持った指導員の方が地域でも企画をし、ぴんころステーションを行った回数が多かったため、増加したと考えられる。
8	46	ぴんころステーション延べ参加者数	421	健康増進	今後の方針	質問票による質問			実施箇所の拡大をどのようにしてどの程度拡大するのか、具体的に記載すべきではないか。	市内全域で活動している食生活改善推進協議会や保健指導員会などとタイアップするとともに、若い世代へは小中学校の給食を介しながら、市内全域、さまざまな世代へぴんころ食を通じた食育活動の拡大を図り、ぴんころステーションの開催数を伸ばしていく。
9	46	ぴんころステーション延べ参加者数	421	健康増進	その他	質問票による質問			①野沢山門市におけるぴんころステーションの参加者数は。 ②戸外での開催は困難だと思うが、室内での実施は計画されてきたのか。 ③目標の見直し、また目標を達成に導く具体的な行動計画はあるのか。	①H20:207名、H21:241名、H22:190名、H23:269名、H24:185名、H25:230名 ②野沢山門市においての室内開催は計画しておりませんが、他のぴんころステーションは室内での実施がほとんどです。 ③目標の見直しは、現段階では考えておりません。目標達成に向けた今後の活動については、整理番号8の回答のとおりです。

整理番号	No.	目標名	施策コード	施策名	質問箇所	種別	結果の分析欄	今後の方針欄	指摘事項	回答
10	47	3歳児のむし歯保有率	421	健康増進	結果の分析	質問票による質問	健診判定基準が見直され、サホライド塗布歯の分類変更が行われたことが一因とも考えられる。	子どもの歯の教室等、様々な機会を有効に活用し、むし歯保有率の減少を図る。	①分類変更の見直しについてはもう少しわかりやすい説明が必要ではないか。例えば「むし歯判定の基準が平成25年度に変更され、サホライド塗布歯もむし歯とすることになった」とか。元の基準で判定した時の値があれば、それも記載すると良いのでは。 ②「一因」とあるが、それではそれ以外の要因は何か。	むし歯判定の基準について、長野県の通知により平成25年度から「サホライド塗布歯」の扱いを、サホライド塗布の有無ではなく、脱灰の有無により判定をすることとなったためと考えられる。
11	47	3歳児のむし歯保有率	421	健康増進	今後の方針	質問票による質問			「教室等を有効に活用して」とあるが、何をどのようにするのか、具体的に記載すべきではないか。	子どもの歯の教室や公民館主催の乳幼児学級、子育て支援課主催の子育てサロンなど、親子で参加する機会を活用し、歯科衛生士によるう歯予防のための歯科指導を行い、むし歯保有率の減少を図る。
12	48	メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合	422	保健活動	結果の分析	質問票による質問	現在集計中だが、割合は大きく変化していないものと思われる。	医療機関との連携を図るなどし、特定保健指導や結果報告会での指導を充実させる。	①「集計中」とあるが、いつ判明するのか。 ②それによって記載が異なるのではないか。	①平成25年度の実績値は、平成26年10月中旬に確定します。 ②現在集計中であるが、平成26年9月4日時点での速報値は25.4%となっていることから、割合は大きく変化していないものと思われる。
13	48	メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合	422	保健活動	今後の方針	質問票による質問			「指導の充実」とあるが、何をどのようにするのか、具体的に記載すべきではないか。	医療機関との連携を図るとともに、特定保健指導や結果報告会での指導においては、フードモデルや手づくりの教材を使用することで、市民が自らの生活習慣の改善がイメージしやすい保健指導を心掛ける。また、保健指導を行う者についても、研修会に積極的に参加し、月1回の学習会で事例検討や国の動向、佐久市の現状等を把握し、スキルアップを図っていく。
14	49	浅間総合病院第二次整備事業進捗率	423	医療	今後の方針	質問票による質問	国の交付金事業である地方都市リノベーション事業採択のため、事業スケジュールを変更したことにより当初計画と比べ事業進捗が遅れている。	新たな事業スケジュールにより、事業進捗を図る。	「新たなスケジュール」では今後の進み具合がどうなりそうか、具体的に記載すべきではないか。	H29.3新中央棟開院という新たな事業スケジュールの管理を徹底するため、工事受注事業者との綿密な打合せにより、事業進捗を図る。
15	51	こんにちは赤ちゃん事業における新生児訪問率	431	母子保健	結果の分析	会議中の質問	こんにちは赤ちゃん事業が地域に浸透している。	生後4か月以内に訪問できるよう、実施をさらに強化していく。	「事業が地域に浸透している」と記載されているが、市として何をやって何がよかったのか。	・母子手帳交付時、パパママ教室時、出産での入院時、出生届出時等の機会に訪問についての説明を実施しております。また、出生届出時に配布する赤ちゃん手帳へ記載をしております。経産婦さんには、赤ちゃんが生まれれば、保健師・助産師による訪問を受けるものだという意識が浸透していると思われる。
16	51	こんにちは赤ちゃん事業における新生児訪問率	431	母子保健	今後の方針	会議中の質問			「実施をさらに強化していく」とあるが、何を強化していくのか。	生後4か月以内に訪問できるよう、母子手帳交付時、パパママ教室時、出産での入院時、出生届出時等の機会に対象者全員に必要性を丁寧に説明していく。また、訪問不要の方については、その理由についてアセスメントし、対策を講じていく。

整理番号	No.	目標名	施策コード	施策名	質問箇所	種別	結果の分析欄	今後の方針欄	指摘事項	回答
17	53	つどいの広場の延べ利用者数	431	母子保健	結果の分析	質問票による質問	大雪の影響により開催日数が減少したことで昨年度より参加者数が若干減少しているが、気軽に集い、交流できる場として提供でき、また子育て相談の場として、育児不安の軽減を図ることができた。	講習内容について、参加者の要望をスタッフ会議で検討し、事業の改善を図る。子育てサークル等の活動実態を把握し、場所の提供などの支援を行う。県と連携し、仕事に対する不安や悩みを抱えた子育て世帯の女性に対して相談支援を行う。	①開催日数をいくつかいくつに減ったのか。ただ、平成24年度もベースラインより少ないので、その分析も必要ではないか。 ②「気軽に集い、…」の文章は不要ではないか。ここではあくまでも利用者数の増加を取り上げているので、それに関する分析が必要。	①H24:628回→H25:614回(14回減) ②大雪の影響で開催日数が減少し、昨年度より参加者数が若干減少した。
18	53	つどいの広場の延べ利用者数	432	子育て支援・児童福祉	今後の方針	質問票による質問			①「参加者の要望を…」とあるが、現時点でどんな内容が想定され、どんな対策が考えられるか記載すべきではないか。 ②「場所の提供」、「相談支援」とあるが、今まではあまり実施していなかったことか。今後はどの程度進めるのか、具体的に記載すべきではないか。	①参加者の要望が多い「リミック」を平成26年度から実施し、また、ベビーマッサージについては、乳児の参加が少なかったことから、幼児まで範囲を広げ、「ベビー・キッズマッサージ」として実施するなど、参加者からのアンケート調査を基に改善点についてスタッフ会議で検討し、参加者の増加を図る。子育てサークル等の活動実態を把握し、場所を提供するなどの活動支援を行う。 県と連携し、仕事に対する不安や悩みを抱えた子育て世帯の女性に対して相談支援を行う。 ②「場所の提供」について：子育てサークル等に対し、これまで場所の提供をした実績はありません。今後は、サークル等からの要望によりつどいの広場を提供し、サークル活動に対する支援を行います。 ・「相談支援」について：つどいの広場において、子育て期の女性を対象とした就労相談の実績はありません。今後は、専門知識を有する県の就労相談支援員と連携し、就労に対する不安の軽減を図り、子育てと仕事の両立に向けた支援を行います。
19	53	つどいの広場の延べ利用者数	432	子育て支援・児童福祉	その他	質問票による質問			①「つどいの広場」とはどんなものか計画にも記載がありません。1行程度の簡単な説明が付けられるといいのではない(市民の皆さんがご存じでしたら申し訳ありません)。 ②ベースライン15,099人で目標15,800人とわずか4%の増加にしかならないが、事情があるのか。 ③先日の部会で出たように、子どもの数で割るなどの工夫がこの項目でも必要ではないか。	①「子育て中の保護者が、就学前の子どもと一緒に気軽に集い、自由に交流したり、相談し合ったりすることによって子育ての不安や悩みの解消を図る場所」です。 ②児童数減少の中、H22年度実績の5%増を目標値として設定しています。 ③次期の目標値設定において、参考とさせていただきます。
20	54	児童館の延べ利用者数	432	子育て支援・児童福祉	結果の分析	質問票による質問	目標は達成していないが、H25年度実施したニーズ調査の結果から、児童に健全な遊びを与え、働きながら子育てをしている家庭の生活支援施設としての市民満足度は高い。	平成25年度の養護学校児童生徒の受入実績がないことから、受入先の児童館やその体制等について検討を進める。	①目標に達していない分析を記載すべきではないか。 ②「H25年度実施した…高い。」の文章は不要ではないか。ここではあくまでも利用者数の増加を取り上げているので、それに関する分析が必要。	①②児童数の減少により児童館利用者数が減少している。
21	54	児童館の延べ利用者数	432	子育て支援・児童福祉	今後の方針	質問票による質問			「検討を進める」とあるが、いつ、どのようにしてなど具体的に記載すべきではないか。	平成25年度の養護学校児童生徒の受入実績がないことから、養護学校PTAとの懇談会において保護者の希望等をお聞きし、児童館の受入体制等について検討を進める。

整理番号	No.	目標名	施策コード	施策名	質問箇所	種別	結果の分析欄	今後の方針欄	指摘事項	回答
22	55	市内家庭の総消費電力	511	環境保全	結果の分析	質問票による質問	ライフスタイルなどによるエネルギー需要の固定化。	近年の異常な暑さや、積雪量の増加なども勘案しつつ、目標達成のために広報を充実させる。	①「ライフスタイルなどによるエネルギー需要の固定化」ではわかりにくい。もう少し説明が必要ではないか。 ②市民の側に課題があることも理解できるが、行政の取組に対する分析を記載すべきではないか。	省エネやクールシェア・ウォームシェアについての広報により、市民においても省エネ行動は意識されていると考えられるが、近年の異常な暑さや、積雪量の増加などもあり、生活習慣の中で必要なエネルギー使用量が一定化されてきている。
23	55	市内家庭の総消費電力	511	環境保全	今後の方針	質問票による質問			取組としては「広報」だけか。	近年の異常な暑さや、積雪量の増加なども勘案しつつ、市の広報やホームページ、FM放送などにより周知を強化するとともに、省エネ住宅・省エネ機器の導入促進につながる助成などを検討していく。
24	55	市内家庭の総消費電力	511	環境保全	その他	質問票による質問			指標が「総消費電力」となっている。全体の消費量を抑えるとの観点から重要な指標だが、合わせて、一人ひとりの取組を進めるとの観点からすると、人口で割った「市民1人あたり」の指標も重要。それについても今後、モニタリングしてはどうか。	次期の目標値設定において検討させていただくとともに、各年度の施策管理の中で参考とさせていただきます。
25	56	平尾山公園の入場者数	512	街並み緑化・公園・景観形成	結果の分析	質問票による質問	景気などの社会情勢や天候等の影響により入場者の減少がみられる。	公園全体の利用者が減少する中、昆虫体験学習館の入場者は増加したことから、企画等を充実することで利用者数の増加を図る。	①入場者数を「社会情勢」に結び付けるのは無理があるのではないか。 ②天候については、雨天の日数や天候による入場者数の分析などまで行っているのか。	① 高速道路割引制度の変更等により、高速道路利用者が減少することで、公園への立ち寄り者も減少していることから、社会情勢の影響は大きいものと考えております。 ② 詳細な分析は行っていないが、猛暑、大雪の影響は現場の実感として影響があるものと考えます。  上記を踏まえ、「結果の分析」について、次のとおり修正します。 夏場における猛暑、2月の大雪とそれに伴う高速道路の通行止め及び高速道路料金割引制度の変更等の社会情勢の影響を受けたため、平尾山公園の入場者の減少が見られた。
26	56	平尾山公園の入場者数	512	街並み緑化・公園・景観形成	今後の方針	質問票による質問			①昆虫館の入場者数の増加を数値で示してはどうか。 ②企画をどのように充実させるか、具体的に記載すべきではないか。	H21から公園の入場者が減少する中、25年度の昆虫体験学習館の入場者が夏季に限ると700人程増えている。公園利用者の増加を図るため、公園のイベント、企画展等に対するニーズの把握に努め、より効果的な企画を実施するように、公園管理を行っている指定管理者と協議をする。また、公園開設から約20年が経過し、施設の老朽化が見られることから、公園施設長寿命化計画に基づき施設の更新を順次行う。
27	58	事業系ごみの排出量	521	環境衛生	今後の方針	質問票による質問	資源物・可燃ごみ共に分別不足により増加している。	大量排出事業者に対し、直接ごみの減量・分別徹底を指導するなど、啓発を強化する。	「啓発の強化」について、具体的に記載すべきではないか。	・事業所が毎年ごみの排出計画書を提出する際に、ごみの減量・分別徹底を啓発。 ・事業系ごみ袋販売の際に市役所窓口で分別徹底指導や、前年度比排出量増加事業所への直接指導を実施。
28	58	事業系ごみの排出量	521	環境衛生	その他	質問票による質問			経済対策として企業活動を支援するという流れの中においては、「事業系ごみの排出量の減少」というのは矛盾する目標に思えるが、いかがか？少なくとも、事業所数で割るなど、今後は現実的な指標でもモニタリングしてはどうか。	次期の目標値設定において検討させていただくとともに、各年度の施策管理の中で参考とさせていただきます。

整理番号	No.	目標名	施策コード	施策名	質問箇所	種別	結果の分析欄	今後の方針欄	指摘事項	回答
29	60	上水道有収率	522	上水道	結果の分析	質問票による質問	平成25年度は83.7%となり、前年度と比較して0.5ポイント下回り、施設の老朽化等による漏水量の増加が考えられる。	水資源を有効に活用するため、有収率向上の施策を積極的に検討する。	①施設の老朽化に関するデータを記載すべきではないか。 ②ちなみに、どの場所がどのくらい漏れているのかという現状は把握されているのか。また、そのような現状があるのは、修繕に必要な予算が確保できないからか。 ③また、漏水による損失額はどのくらいになるのか、記載すべきではないか。	漏水調査を継続的に実施するとともに、マッピングシステムを有効活用することにより配水ブロックごとの有収水量と配水量を把握し、配水量の分析及び効果的な漏水調査を実施する。配水管網全体のうち耐用年数を超えているものは残り17.8%となり老朽管の更新事業は順調に進んでいるが、老朽化した給水装置からの漏水が多いとも考えられることから、これらの給水装置更新を検討する。
30	60	上水道有収率	522	上水道	今後の方針	質問票による質問			「施策を検討する」段階なのか。具体的な対策を記載することは困難ということか。	
31	61	水源余裕率	522	上水道	結果の分析	質問票による質問	水源水量、一日最大配水量ともに大きな変化がないことから、指標値はほぼ横ばいに推移している。	将来に向け安定した水の供給を維持していくため、適正な水源水量の確保に努める。	水源量増加、配水量減少の取組を記載すべきではないか。	一日最大配水量は将来的に減少傾向で推移するものとして予測しているが、安定した水の供給を持続させるため、継続的に新規水源開発事業に取り組んでいる。
32	61	水源余裕率	522	上水道	今後の方針	質問票による質問			「適正な水源量確保」に関する具体的な取組を記載すべきではないか。	
33	61	水源余裕率	522	上水道	その他	質問票による質問			計画書133ページ脚注の水源余裕率の計算式が誤っているのではないかと。1の直後に来るのでは。	ご指摘のとおりです。 水源余裕率 = (確保している水源水量[m <sup>3</sup> ] / 一日最大排水量[m <sup>3</sup> ] - 1) × 100
34	62	下水道整備面積	523	下水道	結果の分析	質問票による質問	平成25年度は西屋敷地区、荒宿地区など6.52haの整備を計画的に行い、整備面積は着実に増加している。	未整備地区の優先順位を考慮し、下水道の整備促進を図る。	「着実に増加している」とあるが、評価は「やや遅れている」なので、整合を取る必要があるのではないか。	財政負担を考慮する中で、下水道事業に係る計画の見直しを行い、優先順位を考慮しながら整備を行うこととしております。ご指摘の事項については、「着実に」を削除いたします。
35	62	下水道整備面積	523	下水道	今後の方針	質問票による質問			来年度には目標(目安)に達するための具体的な取組が必要ではないか。平成25年度が「やや遅れている」ので、次で挽回するためには予算等が具体的に必要となる。	上記と同様、下水道整備については、財政面の考慮が必要なことから、「今後の方針欄」を次のように修正します。  財政面も含めて未整備地区の優先順位を考慮し、整備促進を図っていく。
36	63	下水道使用料収納率(現年分)	523	下水道	結果の分析	質問票による質問	25年度は年度末(2月)の大雪が影響し、交通に支障が生じたため、この時期の収納率が低下し、翌年度収入にずれ込んでしまったことにより、下水道使用料収納率が目標値に若干達しなかった。	口座振替を推進するため、現金納付者の納入通知書すべてに推進チラシ及び口座振替依頼書を同封。また、滞納処分を視野にいたした滞納整理強化を検討する。	①「今後の方針」に口座振込に関する記載があるので、結果の分析欄にその現状を記載するとわかりやすいのではないか。 ②また、滞納処分・滞納整理の現状についても同様。	口座振替の利用の依頼により、96.8%(24年度末)から97.6%に利用率が伸び、また未納者に対する訪問や催告通知など滞納整理の強化を行ったものの、平成25年度は年度末(2月)の大雪が影響し、交通に支障が生じたため、この時期の収納率が低下。翌年度収入にずれ込んでしまったことにより、現年度分下水道使用料収納率が目標値に若干達しなかった。

2 「チャレンジ！！」に対する指摘事項

整理番号	施策コード	施策名	チャレンジ!!	質問箇所	種別	平成25年度の取り組み	今後の方針	指摘事項	回答
1	411	福祉のまちづくり	全地区が災害時住民支え合いマップを完成し、必要に応じて見直し更新を行います。	今後の方針	会議中の質問	平成25年度末において、240区中213区でマップが作成された。	今後も社会福祉協議会等を通じて、マップ未作成の地区においての作成、また作成された地区においてはその見直しを進めていただくよう、推進していく。	マップを作っても使い方が分からなければ意味がないので、マップの使い方を指導していくということ、今後の方針の中に追加してほしい。	今後も社会福祉協議会等を通じて支え合いマップの目的や使用方法について説明するとともに、マップ未作成の地区においてはその作成を、既作成地区においてはその見直しを促進する。作成区においては、区での防災訓練時において支え合いマップ等を利用した避難訓練等の実施について働きかけを行う。 なお、支え合いマップの作成に当たっては、プライバシーに配慮するとともに個人情報の取り扱いについて、社会福祉協議会等を通じて指導していく。
2	411	福祉のまちづくり		今後の方針	会議中の質問			今後の方針に、「プライバシーにも配慮して進めていく」という内容も入れてほしい。	
3	411	福祉のまちづくり		今後の方針	会議中の質問			今後の方針に、「マップの活用の訓練をすべき」と書いていただき、事業としてやっていただきたい。	
4	412	高齢者福祉・介護保険	介護予防事業を通じ、健康寿命を延ばします。	取り組み状況・今後の方針	会議中の質問	地域包括支援センターと連携し、介護や生活相談の充実を図っている。	保健・医療・福祉・介護の各分野の連携を図り、高齢者を支援していく。	法律に則ってやることを書いてあるだけだが、「チャレンジ！！」という内容なので、ここはもっと工夫が必要ではないか。	・介護保険法の一部改正により、H29年度に向けて、介護予防の事業体系が変更になるため、現在実施している介護予防事業の見直しをする中で、工夫をしていきたいと考えます。  ・「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。 介護予防事業は22事業を実施した。 そのうち、「75歳お達人訪問指導」は、対象高齢者(介護保険を利用されていない方)876人に訪問を実施し、後期高齢者の介護予防や健康の維持増進について指導及び相談を行った。 一般高齢者向けの参加型事業は、「はつらつ音楽サロン」「転倒骨折予防事業」「はつらつ水中をウォーク」など5事業を、実施し2,453名の参加があった。 また、保健師・栄養士・健康運動指導士が地区に出向き介護予防の講義や実践指導を実施した。  ・「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 保健・医療・福祉・介護の各分野の連携を図り、高齢者を支援していきます。また、高齢者自身が支え手になり、介護予防を実践していける体制を整備、推進していきます。
5	413	障がい者福祉	障がい児・者及び家族に対するライフステージに応じた一貫した相談支援体制の充実を目指します。	取り組み状況	会議中の質問	障害者総合支援法に基づく指定特定相談支援事業所・相談支援専門員の拡大について、障害福祉サービス事業所に働きかけた。発達障害及び発達の気になる児童に対し、成長段階ごとに関わる支援関係者が情報を共有し、一貫した支援ができるためのツールとして作成した「サポートブック虹のかけはし」を希望者に配布した。	平成26年度末までに、障害福祉サービスを利用している全対象者に、サービス等利用計画を作成していく。「サポートブック」については、今後も周知に努めるとともに、内容の見直しを図っていく。	「事業者に働きかけた」や「希望者に配布した」だけでは、イメージが伝わらないので、「何人に配布した」など、できるだけ数値で表していただきたい。	・「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。 障害者総合支援法に基づく指定特定相談支援事業所・相談支援専門員の拡大について、障害福祉サービス事業所に働きかけた。 平成25年度末現在の相談支援事業所数11、相談支援専門員20名 計画相談対象者数(障がい者)732人(児)150人 計画作成済み(障がい者)357人(児)35人 発達障害及び発達の気になる児童に対し、成長段階ごとに関わる支援関係者が情報を共有し、一貫した支援ができるためのツールとして作成した「サポートブック虹のかけはし」を希望者に配付した。平成25年度末現在の配付数は、500冊中99冊であり、そのうち22名は就学後の児者、他77名は就学前の児童であった。
6	413	障がい者福祉		取り組み状況	質問票による質問	①事業所・専門員の具体的な数を記載すべきではないか。 ②「サポートブック」を配布した年代・人数を記載すべきではないか。 ③「今後の方針」にサービス等利用者計画の記載があるので、「取り組み状況」にその現状値を記載すべきではないか。	①事業所・専門員の具体的な数を記載すべきではないか。 ②「サポートブック」の周知、見直しの具体的な内容を記載すべきではないか。	・「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 障害福祉サービスを利用している全対象者に対して、平成26年度末までにサービス等利用計画を作成していくために、月例事業所連絡会議及び佐久圏域事業所会議等において、相談支援専門員研修の受講と指定相談支援事業所開設について引き続き依頼をしていく。 目標数値：平成28年度相談支援事業所数20、相談支援専門員20名 平成30年度相談支援事業所数23、相談支援専門員35名 「サポートブック」の配付については、ホームページ・広報等の周知に加え、相談場面や出生・就園・就学等ライフステージが変わる際の周知に努めていく。また、これまで配付した利用者からの声を聞き、より有効活用できるよう内容の見直しを図っていく。	
7	413	障がい者福祉		今後の方針	質問票による質問				

整理番号	施策コード	施策名	チャレンジ!!	質問箇所	種別	平成25年度の取り組み	今後の方針	指摘事項	回答
8	421	健康増進	食育を通して食を大切にすることを育み、朝食を毎日食べる小学生・中学生の割合を100%にします。	取り組み状況	質問票による質問	広報において食育だよりを掲載し、啓発活動を行った。保育園・学校において食育活動を実施し、朝食摂取の必要性を啓発した。	今後も保育園や学校において、食育活動を継続・強化していく。市民全体に食育の必要性を啓発する。	①朝食を食べている割合の現状値を記載すべきではないか。 ②食育だよりの回数、保育所等における活動の回数・人数などを具体的に記載すべきではないか。	朝食を食べている割合は、平成25年度佐久市食生活実態調査により、小学生91.7%中学生87.5%であることから、年12回広報に食育だよりを掲載し、啓発活動を行った。また、栄養職員が保育園10園及び全小中学校を訪問し、紙芝居や講話を通じて朝食摂取の必要性を啓発した。
9	421	健康増進		今後の方針	質問票による質問			①強化とは具体的にどんなことか。 ②市民全体への啓発とは具体的にどんなことか。	①食育ボランティアの食生活改善推進員、さく・さく食育応援隊の育成や、小中学校では栄養教諭、栄養職員と協力したびんびんキラリ食を介した活動を行っています。また、これから子育てを行っていく妊産婦やその家族、乳幼児健診での栄養指導・相談での朝食に関する指導や、喫食状況の確認を強化していきます。 ②広報への食育だよりの掲載(毎月)、食育月間・食育の日に合わせてFMラジオ・CATVでの啓発、ライフステージに合わせ、乳幼児健診や集団健診後の報告会等で行われる食育活動等が挙げられます。
10	422	保健活動	住みやすい社会を目指し、多様な悩みを抱える方を支援する絆を拡大するなど、「生きるための支援」に取り組むことにより、自殺者0人を目指します。	取り組み状況	質問票による質問	・毎日の電話相談事業として「こころのほっとライン佐久」を開設した。 ・毎月1回「こころの相談日」を設け、相談事業を実施した。 ・「ゲートキーパー養成講座」「心の健康づくり講座」を開催し自殺防止の啓発活動を行った。	・今後も相談事業は継続する。 ・相談電話をフリーダイヤル化し、より相談の環境を充実する。 ・関係機関、周辺市町村とも連携して啓発活動を実施する。	①自殺者数の現状値を記載すべきではないか。 ②「ホットライン」、「相談」、「ゲートキーパー」、「講座」の実績値などを具体的に記載すべきではないか。	(現状)平成25年の自殺者数は19名である。(内閣府) ・毎日の電話相談事業として「こころのほっとライン佐久」を開設した。相談者は483名であった。 ・毎月1回「こころの相談日」を設け、相談事業を実施した。相談者は12名であった。 ・「ゲートキーパー養成講座」「心の健康づくり講座」を開催し自殺防止の啓発活動を行った。 *「ゲートキーパー養成講座」の出席者は初級編89名、中級編60名、フォローアップ編72名、「心の健康づくり講座」の出席者は151名であった。
11	422	保健活動		今後の方針	質問票による質問			「連携して啓発活動を」とあるが、具体的にどんなことか記載すべきではないか。	庁内での連携や、関係各団体との連携、定住自立圏形成協定での連携を考えているため、原文のままとします。
12	423	医療	市民・地域・医療機関との連携・協力を進め、日常生活圏において必要なときに必要な医療サービスを受けられるよう地域に密着した地域完結型医療を構築します。	取り組み状況	質問票による質問	平日夜間や休日小児の初期救急医療を確保するため、浅間総合病院内に急病診療センターを開設している。また、初期救急から3次救急までの安定的な医療提供体制を確立するため、佐久総合病院再構築を支援するとともに、佐久医療センター開院後の医療機関の役割分担について、市民理解を得る取り組みを進めてきた。	今後も急病診療センターを継続して開設する。医療連携協議については、佐久医療センターが平成26年3月1日に開院を迎え、医療機関の役割分担が明確になる中で、医療の安定供給を促すための連携協議を継続するとともに、正しい医療機関のかかり方等について、引き続き市民に対する啓発活動を継続する。	①急病センターの現状値を記載すべきではないか。 ②再構築を支援とあるが、具体的な内容を記載すべきではないか。 ③市民理解を得る取り組みについて、具体的な内容を記載すべきではないか。	平日夜間や休日小児の初期救急医療を確保するため、浅間総合病院内に急病診療センターを開設、平成25年度の利用状況は、平日夜間が、236日の開設に対し4人/日、休日小児については70日の開設に対し、34.7人/日の利用があった。また、初期救急から3次救急までの安定的な医療提供体制を確立するため、佐久総合病院再構築を支援してきており、その中で、医療機関同士の連携強化を図るため「佐久市医療体制等連絡協議会」を主催するとともに、佐久医療センター開院後の医療機関の役割分担について、市民の理解を得るため、市民を対象としたアンケート調査を実施するとともに、その結果も含め、医療機関の役割分担等について、市広報に3回シリーズで掲載するなどの取り組みも行った。
13	423	医療		今後の方針	質問票による質問			①佐久医療センターは昨年度開院しているため、「開院を迎え」ではなく「開院し」ではないか。 ②連携協議のことは取り組み状況の欄にも現状を記載すべきではないか。 ③病床整備に対する補助のことも記載できるのではないか。	今後も急病診療センターを継続して開設する。医療連携協議については、佐久医療センターが平成26年3月1日に開院し、医療機関の役割分担が明確になる中で、医療の安定供給を促すための連携協議を継続するとともに、正しい医療機関のかかり方等について、引き続き市民に対する啓発活動を継続する。 また、今後については、「急性期を経過した患者の受け皿確保」及び「高齢化を踏まえ、在宅医療への移行を促進するためのリハビリ体制の整備」などについて、支援策を研究、検討する。

整理番号	施策コード	施策名	チャレンジ!!	質問箇所	種別	平成25年度の取り組み	今後の方針	指摘事項	回答		
14	424	医療保険・国民年金	特定健康診査の受診率を65%まで引き上げます。	取り組み状況	質問票による質問	・広報、FMさくだいら、佐久ケーブルTV、未実施者への電話による受診勧奨 ・「受診券」の発送による医療機関への直接申し込みを可能とした。 ・10月の受診勧奨月間中の市内大型店での受診勧奨・広報車の市内巡回	定期的に診療を受けている者へのヘモグロビンA1C付加検査による特定健診とみならず診療を市内医療機関と協力を図り今年度より実施	①特定健康診査受診率の現状値を記載すべきではないか。 ②受診勧奨の回数、受診券の発送人数・直接申し込みの人数等の現状値を記載すべきではないか。	受診の必要性の啓発に力を入れ、広報掲載(5回)や、FMさくだいら・CATVなど放送媒体を通じた呼び掛け、未受診者に対する電話(893件)・はがき(9,996通)による呼び掛け、10月の受診勧奨月間に合わせた街頭PR、保険証の斉更新時の啓発チラシの同封などを行った。 また、「受診券」の発送による医療機関への直接申し込みを可能とした結果、発送人数18,809人に対し2,722人が直接申し込みを行った。 結果として受診率は37.1%(H24確定値)から36.8%(H25見込値)へ下落したが、啓発活動については今後も地道に行っていくことが重要だと考えている。		
15	424	医療保険・国民年金		その他	質問票による質問					付加検査の取扱いの見通しはどうか。	24年度確定数値5.2%増の、900件となる見込みです。
16	431	母子保健	父母への啓発活動の強化などにより、乳幼児健診受診率100%を目指します。	取り組み状況	質問票による質問	妊娠中に実施するパパママ教室への参加を母子手帳の交付時に周知して参加を促し、教室では乳幼児健診の必要性等を啓発した。未受診者への受診勧奨を前日、当日の電話連絡、来所しない方へのはがき勧奨等を行った。	母子保健事業は、安心安全に産み育てるための基本事業であるため、今後も社会情勢等の状況を踏まえ、実施を強化していく。	①乳幼児健診受診率の現状値を記載すべきではないか。 ②教室への参加状況、電話連絡・はがき勧奨等による現状値を記載すべきではないか。	平成25年度乳幼児健診受診率は4か月児健診99.1%、10か月児健診98.1%、1歳6か月児健診99.5%、3歳児健診98.8%である。受診率向上のために、妊娠中に実施するパパママ教室への参加を母子手帳の交付時に周知して参加を促し、教室では乳幼児健診の必要性等を啓発した。未受診者への受診勧奨を前日、当日の電話連絡、来所しない方へのはがき勧奨等を行った。		
17	431	母子保健		今後の方針	質問票による質問					記載内容が抽象的である。実施を強化することの具体的な内容を記載すべき。	母子保健事業は、安心安全に産み育てるための基本事業であるため、今後も社会情勢等の状況を踏まえ、実施を強化していく。具体的には、電話やはがきによる勧奨で未受診の場合には、地区担当保健師による家庭訪問や子育て支援課等他課との連携により受診勧奨や未受診理由を把握することによりさらなる受診率の向上を目指す。
18	432	子育て支援・児童福祉	本市の合計特殊出生率を1.6から1.9まで伸ばします。	取り組み状況	質問票による質問	各種施策を実施し、安心して産み育てることができる子育て支援環境の整備を行った。	合計特殊出生率が上昇するよう、今後も各種施策を実施することにより、安心して産み育てることができる子育て支援環境を提供していく。	①合計特殊出生率の現状値を記載すべきではないか。 ②各種施策の内容を具体的に記載すべきではないか。	①②子どもを安心して産み育てることができるための各種施策を実施し、合計特殊出生率が1.52となった。(H24集計結果)		
19	432	子育て支援・児童福祉		今後の方針	質問票による質問					記載内容が抽象的である。実施を強化することの具体的な内容を記載すべきではないか。	合計特殊出生率が上昇するよう、新小学校区への児童館整備及び望月、平賀・内山地区への保育所の整備を進め、安心して産み育てることができる子育て支援環境を提供していく。
20	432	子育て支援・児童福祉		その他	質問票による質問					不登校や引きこもりの児童は児童館に行けないという話を聞いているが、友人と一緒に児童館に行けるような対策はとれないか。臨床心理士や児童精神医療の専門家などの配置の検討はできないか。	不登校や引きこもりの児童は、まずは学校に通えるようになることを主眼に、教育委員会と学校・家庭が連携し、スクールメンタルアドバイザーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を活用しながら指導をしているところです。児童館独自でご質問のような配置をすることは考えておりません。

整理番号	施策コード	施策名	チャレンジ!!	質問箇所	種別	平成25年度の取り組み	今後の方針	指摘事項	回答
21	511	環境保全	市内の自然エネルギーを用いた電力自給率、3%を目指します。	取り組み状況	質問票による質問	平成25年12月末の時点で、市内における自然エネルギーを用いた電力自給率は、4.52%であり、後期基本計画の目標である電力自給率3%を大幅に超えた。	新たに策定した「佐久市環境エネルギー重点プラン」に基づき、平成29年度までに市内の再生可能エネルギーを用いた電力自給率8%を目指していく。	目標を大幅に超えた理由、説明などを記載すべきではないか。	平成24年度からの再生可能エネルギーの「固定価格買取制度」の開始に伴う太陽光パネルの設置増加や、市営メガソーラー発電所の建設、市が行っている太陽光パネル等への補助金交付による成果によるものです。
22	511	環境保全		今後の方針	質問票による質問			目標を上げたので、そのために必要な対策について具体的に記載すべきではないか。	新たに策定した「佐久市環境エネルギー重点プラン」に基づき、平成29年度までに市内の再生可能エネルギーを用いた電力自給率8%を目指していくため、太陽光発電設備に対する助成制度の改正、小水力発電施設の整備、その他の再生可能エネルギーの導入に向けての助成制度の検討、省エネ型設備等の導入促進などを行っていく。
23	512	街並み緑化・公園・景観形成	アダプトシステムによる公園管理の実施率を36%まで向上させます。	取り組み状況	質問票による質問	管理委託をしていた行政区等に対するアダプトシステムへの移行の働き掛けや広報佐久、市ホームページで募集を行い、25年度末で27公園で実施した。	25年度末で、アダプトシステムの実施率は43%となっているので、引き続き事業が継続されるように実施団体への援助を行っていく。	「27公園43%」と記載すべきではないか。	管理委託をしていた行政区等に対するアダプトシステムへの移行の働き掛けや広報佐久、市ホームページで募集を行い、25年度末で27公園(43%)で実施した。
24	512	街並み緑化・公園・景観形成		今後の方針	質問票による質問			今後の方針欄に団体への援助とあるが、その現状を取り組み状況の欄に記載すべきではないか。	25年度末で、アダプトシステムの実施率は43%となっているので、引き続き事業が継続されるように、必要となる用具や資材の貸与または支給を行うなど実施団体への援助を行っていく。
25	521	環境衛生	1人1日あたりのごみ排出量が少ない都市、全国1位を目指します。	取り組み状況	質問票による質問	ごみの減量化、及び再資源化施策を継続的に推進し、市民、事業者の皆さんへの啓発により取り組んだ。	目標とするところは、大変高いものであるが、目標に向け少しでも前進できるよう施策に取り組んでいく。	①全国順位の現状値を記載すべきではないか。今後の方針のところに「目標は高い」とあるが、現状値がわからないと、それも判断できない。 ②取り組みの具体的な内容を記載すべきではないか。	①平成24年度1人1日排出量712g/人・日、ごみ排出量少ない都市全国5位(環境省一般廃棄物処理実態調査による) ②生ごみ処理機等購入補助・生ごみ水切運動・マイバック運動・リサイクルと再使用の促進・環境教育の推進・事業系ごみの分別減量化と資源化推進等
26	521	環境衛生		今後の方針	質問票による質問			具体的な施策を記載すべきではないか。	目標とするところは、大変高いものであるが、排出抑制リデュース・再利用リユース・再生利用リサイクルの3R運動の推進により、目標に向け少しでも前進できるよう施策に取り組んでいく。
27	522	上水道	水を自然流下方式で配ることができる地形を生かしながら、太陽光発電を導入するなどにより、環境に配慮した水道を構築します。	今後の方針	質問票による質問	今年度は取り組みなし。	環境に配慮した水道の構築を検討していく。	「環境に配慮した水道」とあるが、定義が計画にも書かれていないが、現状はどうなのか記載すべきではないか。	電気エネルギーなどの使用を抑制するものとして、自然自然流下を生かした配水方法を継続し、ポンプによる加圧給水は必要最低限で運用しております。
28	522	上水道		今後の方針	質問票による質問			検討するとあるが、具体的な日程や手順等を具体的に記載すべきではないか。平成25年度に取り組みなしとなっているので、今後に向けて現実的な対応が必要となる。	チャレンジは、基本計画期間のみならず、各施策を展開する中で、今後の目指す方向として設定したものであるため、具体的な日程・手順が明記できない点もありますが、ご意見を参考とさせていただき、今後の施策展開に生かしてまいります。

3 評価の仕組み・資料の作り方に対する指摘事項

整理番号	指摘箇所		種別	指摘事項	回答
1	目標	表の作り方	会議中の質問	資料2-2について、H24の実績が一番右側にあるが、H22の計画策定時の値があって次にH24の実績値というように、時系列の順に並んでいた方が見やすい。	ご意見として承り、来年度の施策の進行状況の評価にあたって、資料作成に生かしてまいります。
2	目標	表の作り方	会議中の質問	資料2-2について、H24の目安値や進行状況も記載し、H24の進行状況も分かるようにした方がよい。	ご意見として承り、来年度の施策の進行状況の評価にあたって、資料作成に生かしてまいります。
3	目標	表の作り方	会議中の質問	資料2-2について、言葉でただ「順調」と記載するだけではなく、各項目のTの値(進捗率)も記載してあった方が、進捗状況が分かりやすい。	ご意見として承り、来年度の施策の進行状況の評価にあたって、資料作成に生かしてまいります。
4	目標	目安値の設定	会議中の質問	評価の基準が年度を追うごとに厳しくなっているが、後の年度になればなるほどハードルが高くなるよりは、基準は毎年度同じにした方がよいのでは。(全体会議の中での議論を提案)	ご意見として承り、来年度の施策の進行状況の評価にあたって、資料作成に生かしてまいります。
5	目標	目標達成事項の取り扱い	会議中の質問	今年度は達成していても最終年度はどうなるか分からないので、「目標達成」と書くのはどうか。(途中が順調でも最後に大幅に落ち込むこともあり得る。)	ご意見として承り、来年度の施策の進行状況の評価にあたって、資料作成に生かしてまいります。
6	目標	評価方法	会議中の質問	単年の利用者等の数は、何かあったときにはガクンと落ちてしまうので、そういう場合でも次の年に挽回できるように、累計により評価する方法が取ればよいのではないかと。	次期の目標設定にあたり、検討させていただきます。
7	目標	表の作り方	会議中の質問	H24、H25と数字を並べていくように作り変え、目安も年度ごとに設定し、5年間の動きが分かるような評価に改めてほしい。	ご意見として承り、来年度の施策の進行状況の評価にあたって、資料作成に生かしてまいります。
8	目標	目標設定	会議中の質問	平成23年度に策定されたはずなのに、なぜ計画策定時の数値の時点が平成22年度になっているのか。	ほぼすべての項目において、策定当時(平成23年度)に利用可能な最新の統計数字が平成22年度末現在のものだったためです。
9	目標	目標設定	会議中の質問	目標は絶対変えないということではなく、取り扱いは柔軟に変えていってよいと思う。	現在の目標につきましては、平成24年度から平成28年度の5年間で達成したいという熱意をもって設定し、住民説明会や総合計画審議会において了承をいただいた経緯がありますので、変更することは考えておりませんが、次期の目標設定にあたり、検討させていただきます。
10	目標	目標設定	会議中の質問	新たな目標を追加していったらどうか。(後期基本計画P.103「ボランティア登録数」P.105「要介護度別認定者数」などを「目標に準ずるもの」として毎年の進行状況を見る)	現在の目標につきましては、平成24年度から平成28年度の5年間で達成したいという熱意をもって設定し、住民説明会や総合計画審議会において了承をいただいた経緯がありますので、追加は考えておりませんが、施策の進行状況を管理する上で必要な数値の管理を行ってまいります。
11	目標	評価方法	会議中の質問	数値よりも福祉等のサービスを受けられる方の満足度が重要なので、去年使用したアンケートの結果もある程度反映させた評価にした方がよいのではないかと。	ご意見として承り、来年度の施策の進行状況の評価にあたって、資料作成に生かしてまいります。
12	目標	数値設定方法	質問票による質問	①「目標」「チャレンジ」に同じ項目があり、記述の整合が取れていないが(例:水洗化率…目標で90.9%、チャレンジで100%(全戸)と記載)、そこはどのような説明になるのか。 ②「目標」における記載と「チャレンジ」における記載と同じにすべき。その際、できるだけ数値や取り組みはできるだけ具体的に記載することが必要。	「目標」が平成28年度までに達成することを目指しているのに対し、「チャレンジ!!」は、この期間にとらわれず、長期にわたって取り組まないと達成できない項目を掲げておりますので、見据えているタイムスパンの違いに応じ、自ずと記述が異なってまいります。